

# 平成28年度文教予算のポイント(概要)

	26年度	27年度	28年度	(差額、伸び率)
文部科学省予算	5兆3,627億円	5兆3,378億円	5兆3,216億円	(▲133、▲0.25%)
(うち、文教関係費)	4兆964億円	4兆676億円	4兆557億円	(▲90、▲0.22%)
文教関係費(政府全体)	4兆1,049億円	4兆756億円	4兆651億円	(▲76、▲0.19%)

※平成26年度も含めた比較対照のため、各年度の決定額を記載(ただし、28年度の差額・伸び率については、土台修正後)。

## ○ 義務教育費国庫負担金

- ・少子化の進展に伴う基礎定数の減や更なる統廃合の進展による定数減の見込み(対27年度比▲4,000人)を適切に反映する一方、学校現場が抱える諸課題への対応として、小学校の専科教育、貧困対策、特別支援教育など必要な加配定数を拡充(同+525人)。

## ○ チーム学校(専門人材・地域の力の活用)の推進

- ・スクールカウンセラー派遣の拡充(2万4,000校→2万5,500校)
- ・スクールソーシャルワーカー派遣の拡充(2,200人→3,000人)
- ・補習等のための教員サポートスタッフ等派遣の拡充(1万人→1万1,500人)
- ・学校を核とした地域力強化プランの推進

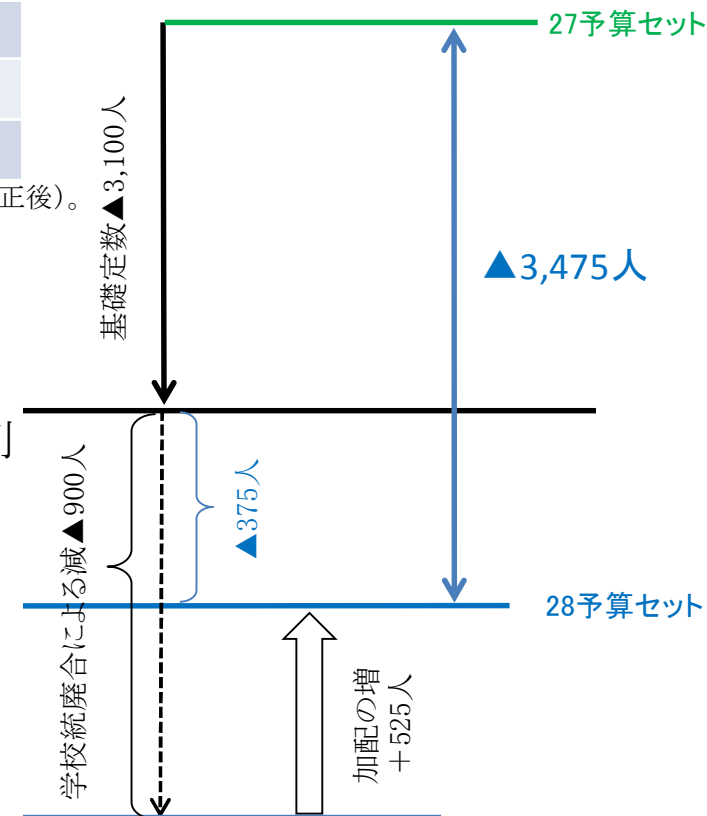
## ○ 国立大学法人運営費交付金

- ・28年度は前年度同水準を確保しつつ、国立大学の機能強化に向けた運営費交付金の適正化・再配分ルールを導入

## ○ 一億総活躍関係

- ・幼児教育の無償化、奨学金の充実、複線的な教育への支援など、経済事情に左右されない教育機会の提供に配慮。

## <義務教育費国庫負担金>



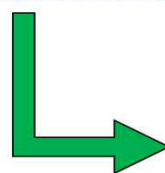
【第3期中期目標期間の運営費交付金算定ルールについて】

①機能強化促進係数(3つの重点区分に応じて▲0.8~▲1.6%)により基幹経費から削減。

重点支援区分A:地域のニーズに応える人材育成・研究を推進(削減率▲0.8%)  
 重点支援区分B:分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進(削減率▲1.0%)  
 重点支援区分C:世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進(削減率▲1.6%)



②機能強化促進のため、基幹運営費の削減分から一部を再配分  
 ※平成28年度予算では①の削減分を全額機能強化促進に再配分



①の財源を活用し、組織改革に必要な設備等に充てる新規の補助金を平成29年度に創設(③)

# 平成28年度科学技術予算のポイント(概要)

○ 政府全体の科学技術振興費は、対前年比+0.6% (12,857億円 ⇒ 12,929億円、+72億円) (単位: 億円)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
科学技術振興費	13,135	13,007	13,372	12,857	12,929
(対前年度増減)	(▲217、▲1.6%)	(▲128、▲1.0%)	(+365、+2.8%)	(▲515、▲3.9%)	(+72、+0.6%)
	(+454、+3.4%)注1	(+1、+0.01%)注2		(+25、+0.2%)注3	

(注1) 24年度については、復興特別会計計上分を合算すると実質的な伸びは+3.4%増。

(注2) 25年度については、給与改定臨時特例法等の影響額を除くと実質的な伸びは+0.01%増。

(注3) 27年度については、一部研究事業の社会保障関係費への統合による減(540億円)を除くと実質的な伸びは+0.2%増。

・文部科学省所管の科学技術振興費: 対前年比+1.2% (8,530億円 ⇒ 8,635億円、+105億円)

・文部科学省研究3局予算(エネ対費含む): 対前年比▲0.6% (9,680億円 ⇒ 9,620億円、▲60億円)

## ○ 科学技術基盤の充実・強化

- ・ 科学研究費助成事業(科研費)(予算額:2,273億円 ⇒ 2,273億円、助成額: 2,318億円 ⇒ 2,343億円)
- ・ (国研)理化学研究所 運営費交付金(515億円 ⇒ 516億円)
- ・ (国研)物質・材料研究機構 運営費交付金(119億円 ⇒ 120億円)
- ・ 人工知能の基盤技術の研究開発拠点の構築(15億円、新規)※(国研)理化学研究所向け補助金

## ○ イノベーションシステム改革の推進

- ・ 優れた若手研究者が安定的に研究することを支援する「卓越研究員」制度創設(10億円、新規)
- ・ 非競争領域の研究における産学連携を加速するための取組の支援(7億円、新規)
- ・ 地域の大学が事業化経験を持つ人材を活用して新産業創出を行う取組の支援(6億円、新規)

## ○ 国際競争力・成長力強化に向けた基幹プロジェクトの推進

- ・ 新型宇宙ステーション補給機の開発を含めた宇宙航空分野の研究開発の推進(1,547億円 ⇒ 1,547億円)
- ・ 次世代ポスト「京」スーパーコンピュータの開発(40億円 ⇒ 67億円)